

ISSN 0914-1057

龍谷大学

# 佛教学研究室年報

第12号

平成16年 3月

龍谷大学  
佛教学研究室年報

第 12 号

目次

卷頭言

最澄撰『大唐新羅諸宗義匠依憑天台義集』に関する諸問題  
米森俊輔・・・1

彙報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

辟支仏と *Mahāpadānasuttanta* 天野信・・・・・・・・・・1

## 巻頭言

龍谷仏教学会 会長 龍口明生

このたびここに『佛教学研究室年報』一二号の刊行を見ましたことは関係者共々慶びとするところであります。本年報は仏教学専攻の大学院生及び修了者が自身で編集・発行しているもので、小規模とは言え、発刊に至るまでの苦勞は多大であったと推察します。

ところで仏教学研究の対象も領域も拡大して参りました。現代社会が抱え持つ諸問題について私達は決して無関心であつてはならない。否、仏教の側から積極的に対応して行かねばなりません。そのためには、仏教文献を中心とした基礎的研究が根柢になくはならず、それと共に他分野に対する精確な理解が先ず要請されて来ます。この当然なことが疎かにされると、苦勞して仕上げた論文も感想文の域を出ないものとなることでしょう。狭義の仏教研究に比すれば数倍もの努力を要します。

近年は社会人の入学者も増加して来ました。各種の分野で活躍し経験を積んで来られた訳であり、互いに影響し合うことによつて、広い視野から仏教を語り、各自の仏教研究の意味を問い、研究の質の維持向上を目指し、研鑽を積むことにより、研究室がさらに活発化することを期待しています。そのような中に於いてこそこの研究室年報を自らの手で発刊することの意義はますます深いものとなるであろうと思ひます。

掲載論攷二篇は論者の精魂を込めた成果であります。内容的には未熟な点も数多あるうかと思われます。何卒御批正を賜りたいと存じます。

二〇〇四年三月

## 2001 年度院生会会員研究発表題目

## 《日本印度学仏教学会 第 52 回大会》

2001 年 6 月 30 日・7 月 1 日 於 東京大学

- ・井上 博文 葉王菩薩考
- ・櫻井 良彦 衆同分と普遍
- ・孫 麗茗 四諦における道諦説について  
—『婆沙論』を中心として—
- ・岩田 朋子 臥座具、度の検討—精舎奉納の因縁譚を中心に—

## 《北陸宗教文化学会第 8 回学術大会》

7 月 14 日 於兼六荘

- ・櫻井 良彦 有部における衆同分の用例

## 《修士論文中間発表》

10 月 26 日・31 日 於 龍谷大学大宮校舎 東叢 104 教室

- ・加藤 拓至 白蓮宗の研究  
—普度撰述『廬山蓮宗寶鑑』を中心—to
- ・近藤 博之 法然教学の研究
- ・米森 俊輔 吉蔵教判成立に関する研究
- ・西本 陽平 ダルマキールティの刹那滅論証の研究
- ・大友 健志 Ślokavartika, Sphotavāda 章の研究
- ・天野 信 原始仏教における過去仏思想の諸問題

- ・寺谷 諭美 Cakkavatti-sihanāda-sutta における諸問題
- ・平井 節代 クリシュナムルティの生涯と思想  
—仏教との比較の視点から—
- ・鶴田 大吾 智顗の「三諦三観」説の研究
- ・鈴木信一郎 『大乘起信論』における真如論の研究
- ・中山 亮 道綽の浄土思想研究

《平成13年度龍谷仏教学会学術研究発表会》

2002年1月18日 於 龍谷大学大宮校舎 西翼大会議室

- ・井上 博文 パーリ律が記す五百結集と七百結集
- ・櫻井 良彦 有部における prāpti の実在論証
- ・岩田 朋子 パーリ律における vihāra の布施
- ・小池 清廉 現代カンボディアの仏教(1)  
—民間療法とヒーリングについて—
- ・佐長 道亮 唯識四分説における「自体分」の意義

## 2002 年度院生会会員研究発表題目

《パリー学仏教文化学会 第 16 回学術大会》

2002 年 5 月 25 日 於 駒澤大学

- ・小池 清廉 精神的危機に対する社会文化的セイフティネットとしてのカンボディア仏教及び伝統治療

《日本印度学仏教学会第 53 回学術大会》

7 月 6 日 於 東国大学校 大韓民国

- ・米森 俊輔 『四論玄議』逸文に見る法朗の教判について

《修士論文中間発表》

10 月 16 日・17 日・24 日 於 龍谷大学大宮校舎 東齋 104 教室

- ・下野 了爾 疑偽經典の研究—『像法決疑經』を通して—
- ・楠 光正 『今昔物語集』における正像末思想の研究
- ・大谷 欣裕 台密形成における一大円教論
- ・久保田千城 法蔵教判の研究
- ・田中 由香 南都仏教における戒体の研究
- ・根来 泰宏 中国唯識における無漏種子の変遷
- ・野呂 靖 明恵上人の研究
- ・山口 陽二 天台円教行位説に関する研究
- ・高岡 善彦 依他起性における雑染と清浄の問題
- ・小谷 知弘 道宣の戒体思想の研究

- ・松島 央龍 無表業の考察
- ・青木 龍也 龍樹の空思想の研究
  - －『中論』注釈書『プラサンナバダー』の解釈に基づいて－
- ・前田 知郷 ネパールにおける女神信仰研究
- ・西谷 功 パーリ文献を中心としたアスラの諸相
- ・溝尻さやか チベット仏教における oracle の研究
  - －特に rDo rje grags ldan について－
- ・植松 正行 アビダルマ仏教における随眠論の研究
  - －『俱舍論』「随眠品」を中心として－

《平成 14 年度龍谷仏教学会学術研究発表会》

2003 年 1 月 20 日 於 龍谷大学大宮校舎 西第大会議室

- ・井上 博文 四分律第一結集記事の問題点
- ・北塔愛美子 法上著『十地論義疏』に見る円融思想の研究
- ・米森 俊輔 興皇寺法朗の三種教判と吉蔵の三種法輪

《黄檗文化研究所研究会》

2 月 22 日 於 黄檗萬福寺内黄龍閣別館

- ・洪 櫻娟 台湾における禪寺と修行僧の生活

## 2001 年度院生会会員研究発表論文

- ・井上 博文 「『観葉王薬上二菩薩経』と関連経典」  
『龍谷大学仏教学研究室年報』第 11 号 2001 年 3 月  
「『観葉王薬上二菩薩経』の研究」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第 23 集 2001 年 12 月  
「薬王菩薩考」  
『印度学仏教学研究』第 50 巻第 2 号 2002 年 3 月
- ・桜井 良彦 「瑜伽行派における衆同分」  
『龍谷大学仏教学研究室年報』第 11 号 2001 年 3 月  
「衆同分と普遍」  
『印度学仏教学研究』第 50 巻第 2 号 2002 年 3 月  
「説一切有部における衆同分の定義」  
『仏教学研究』第 57 号 2002 年 3 月
- ・孫 麗茗 「四諦における道諦説について—『婆沙論』を中心として—」  
『印度学仏教学研究』第 50 巻第 2 号 2002 年 3 月
- ・岩田 朋子 「臥坐具・度について—精舎奉納の因縁譚を中心に—」  
『龍谷大学仏教学研究室年報』第 11 号 2001 年 3 月  
「臥座具・度の検討—精舎奉納の因縁譚を中心に—」  
『印度学仏教学研究』第 50 巻第 2 号 2002 年 3 月
- ・早川 貴司 「法雲の『法華義記』における一乗解釈」  
『龍谷大学仏教学研究室年報』第 11 号 2001 年 3 月
- ・小池 清廉 「仏教倫理から見た自殺・安楽死・尊厳死問題—阿含、  
ニカーヤ、律を中心に—」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第 23 集 2001 年 12 月



## 2002年度院生会会員研究発表論文

- ・井上 博文 「Mahāparinibbānasuttanta と第一結集」  
『龍谷大学大学院文学研究科紀要』第24集 2002年12月
- ・櫻井 良彦 「説一切有部における衆同分の分類」  
『インド学チベット学研究』第5・6号 2003年3月
- ・小池 清廉 “Cambodian Buddhism and Traditional Healing  
as Socio-cultural Safety Net for Mental Crises”  
『パーリ学仏教文化学』第16号 2002年12月  
「生と死、東と西—死ぬ権利はあるか—」  
『国際社会福祉情報』第26号 2002年  
“Suicide and Euthanasia from a Buddhist Viewpoint  
—On *Nikāya*, *Vinaya Piṭaka* and the Chinese Canon—”  
『インド学チベット学研究』第5・6号 2003年3月
- ・米森 俊輔 「『四論玄議』逸文に見る法朗の教判について」  
『印度学仏教学研究』第51巻第2号 2003年3月

## 編集後記

『龍谷大学佛教学研究室年報』第12号がようやく完成いたしました。諸般の事情により発刊が遅延いたしましたことを、関係者の方々、および執筆者の方々にお詫び申し上げます。

本誌は、龍谷大学において仏教学を専攻する大学院生がどのような研究活動を行なっているのかを、広く学内外に知っていただくと共に、大学院生に研究の場を提供しようという趣旨のもとに発刊しております。掲載されている論文は、すべて大学院生によるものであるため、未熟な点多々あるかと思いますが、執筆者のためにも、学の内外を問わずご指導いただけたら幸いです。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず、「巻頭言」を賜りました龍口明生先生に、編集委員会一同、ここに感謝の意を表します。

(磯邊記)

龍谷大学佛教学研究室年報 第12号

2004年3月31日発行

編集者 龍谷大学佛教学研究室年報編集委員会  
磯邊友美

印刷所 大学生協京部事業連合ブックプリントセンター

発行所 龍谷大学仏教学研究室

〒600-8268 京都市下京区七条大宮

075-343-3311 (代表)

龍谷大学仏教学院学生会則

第一章 総 則

第一条 本会は、龍谷大学仏教学院学生会と称する。

第二条 本会は、院生の自治を基本として、学問の自由を擁護し、龍谷大学仏教学院院生の研究活動の向上に努め、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

第三条 本会は、執行部を京都市下京区七条大宮龍谷大学仏教学研究室内に置く。

第二章 会 員

第四条 本会は、次の会員を以て構成する。

- 一、正会員 龍谷大学大学院仏教学専攻に在籍するもの。
- 二、準会員 本会の主旨に賛同し、特に本会に認められたもの。

第三章 総 会

第五条 総会は、本会の最高議決機関である。

第六条 総会は、本会の正会員をもって構成する。

第七条 総会は、正会員の三分の一以上の参加をもって開催することができる。

- 一、定期総会（毎年四月）
- 二、会長が必要と認めた場合。
- 三、正会員の五分の一以上の連署による要求のあった場合。

第九条 総会における決議は出席会員の過半数の同意を必要とする。

第四章 執行部役員

第十条 本会は、次の役員をおく。

- 一、①会長一名 ②副会長一名 ③会計一名 ④渉外一名 ⑤書記一名 ⑥会計監査一名
- ⑦文学部院生協議会代表委員二名
- 二、ただし、①、③以外の兼任はこれを妨げない。

第十一条 会長は、会員の推薦により総会の承認を得る。

第十二条 会長は、本会を代表し、執行部は統括する。

第十三条 役員は、総会において正会員より選出する。役員の任期は一年とし、重任は妨げない。

第五章 事 業

第十四条 本会は第二條の目的を達成する為、次の事業を行う。

- 一、研究発表会、講演会等の開催並びにその援助。
- 二、出版物の刊行。
- 三、会員親睦に関する事業。

第十五条 第十四条一、二、の事業に関しては次のとおりに行う。

- 一、原則として正会員は、年一度研究発表会を行うものとする。
- 二、研究発表に關しては、次のとおりに行う。
  - イ、修士課程（以下Mと略す）一年は、一年間を発表猶予期間とみなし、翌年度初頭における研究経過報告会にて発表を行うものとする。
  - ロ、M二年以上は、修士論文提出前に行う中間発表をもって、これにかえることができる。但し、該当年度の論文提出を行わないものも、研究経過の発表をもって

これにかえることができる。

八、博士後期課程（以下Dと略す）は、同等の研究雑誌に活字化された論文の発表を行う。

二、但し、D一年は、修士論文要約（『大学院紀要』に掲載分）をもってこれにかえることができる。

三、第十四条二の内、年一回は、研究雑誌の発行を行うものとする。又、発行に際しては、編集委員会を置き、本会執行部役員をもってこれを構成する。

イ、編集委員の内、編集委員長一名を互選し、委員を統括するものとする。

ロ、但し、編集委員会が必要と認めた場合、若干名の委員を、正会員より委員長が任命することができる。

第六章 会 計

第十六条 本会の会計年度は、毎年四月一日より翌年三月三十一日までとする。

第十七条 本会の経費は、還元金、会費、寄付金、およびその他の収入による。

第十八条 本会の決算報告は、監査委員の監査を受けた後、執行部が決算報告書を総会に提出し、その承認を得なければならぬ。

付 則

一、本会則は、総会の決議により変更することができる。

二、本会則は、昭和六十年四月一日施行平成三年五月一日（一部変更）の龍谷大学仏教学院学生会則の一部を変更し、平成六年四月十八日より施行する。

BULLETIN  
OF  
BUDDHIST STUDIES  
RYUKOKU UNIVERSITY

No. 12

CONTENTS

Foreword

Problems of Saicho's *Daito Shiragi Shoshu-gi-sho*  
*Ebyo Tendai-gi Shu*  
(Shunsuke YONEMORI) . . . . . 1

paccekabuddha and *Mahāpadānasuttanta*  
(Shin AMANO) . . . . . 1

March, 2004